

受賞おめでとうございます！ 全国表彰式の主役たち

Part 1

全国表彰式(11月26日(土)開催)では、各地の「小さな親切」推進者の功績を称えるほか、作文コンクールやエッセイコンテスト入賞者の表彰を行います。今年の表彰者の中から、「Best Kindness Award」「運動大賞」「実行章575万人目受章者」をご紹介します。

新賞
ベスト カインドネス アワード
Best Kindness Award

「小さな親切」運動 静岡県本部

【発 足】

平成9(1997)年2月

【代 表】

後藤正博(静岡銀行取締役)

【事務局】

〒424-8677 静岡県静岡市清水区草薙北2番1号
静銀総合サービス株式会社内



「小さな親切」運動大賞 千葉県 京葉ガス株式会社 「小さな親切」の会

【発 足】

昭和60(1985)年11月

【代 表】

羽生 弘(京葉ガス株式会社常務取締役)

【事務局】

〒272-8580 千葉県市川市市川南2-8-8
京葉ガス株式会社内



Best Kindness Award受賞

過去に『「小さな親切」運動大賞』を複数回受賞し、現在も活発に運動を推進する道府県本部・支部に対し贈られる、今年新たに設立した新賞。

静岡県本部はココがすごい！

■豊かな自然を次世代へ！

・里山づくり(植樹・森林整備活動)

豊かな森林や里山を次世代に残す為、県や関係団体と連携し、各地で植樹や下草刈りをする活動を行っています。

・棚田保全活動

貴重な棚田とその景観を守るため、県内2ヶ所の棚田オーナーとなり、田植えと稲刈りを行っています。収穫したお米は児童福

社施設等へ寄贈しています。

■贈って終わり、ではありません！

車椅子を寄贈するだけでなく、過去に車椅子を寄贈した施設の清掃活動を実施したり、施設に必要な用具等を寄贈しています。

その他に、作文コンクール、あいさつ運動、クリーン大作戦など様々な活動を静岡県全域

でパワフルに推進しています。活動の詳細は、静岡県本部のホームページをご覧ください。
<http://www.across.or.jp/kindness/>

「小さな親切」運動大賞とは？

長年にわたり熱心に活動が続けてきた地域組織や団体、学校に贈られる最高賞。

京義ガスはココがすごい！

昭和60（1985）年、労使から役員を出しあって発足。強制ではなく、社員一人ひとりの自主的な活動が今日まで続いています。

■「小さな親切」で地域貢献！

30年以上にわたり自治体主催のクリーン大

作戦への参加や、社屋近隣の清掃活動を実施。美しい街づくりは、近隣住民に感謝されています。

■被災地の復興を応援！

近年の大災害等の発生に際し、運動本部の見舞金・義援金の呼びかけに応じ、いち早く寄附をしてくださっています。

「小さな親切」実行章受章者が

575万人に到達！

記念受章者の少年と、 それを育んだ小学校をレポート。



575万人目受章者の藤倉亮くん

昭和38年6月に「小さな親切」運動がスタートして、53年目の今年7月、「小さな親切」実行章の受章者が575万人に達しました。

575万人目の受章者は、栃木県佐野市立天明^{てんみょう}小学校3年生の藤倉亮君です。

いったいどんな子なのか取材に伺ったところ、記念すべき受章者が育った背景に、学校自体の素晴らしい取り組みがあることがわかりました。

実に魅力的な少年でした

佐野市は栃木県南部にある町で、全国的には佐野ラーメンや佐野厄除け大師が有名ですが、教育や子育てにも熱心な地域です。佐野支部もあり、各学校に働きかけて長年にわたり、豊かな心づくりを推進しています。

天明小学校は明治6年に開校の祖を持つ伝統校で、現在、在校生は372名。その教育方針は四つあります。「健康な子ども」「考える子ども」「働く子ども」「そして「親切な子ども」です。「親切」が教育方針に入っているのです。

さて、いよいよ藤倉君とご対面です。通された校長室にやってきたのは、とてもかわいらしい笑顔の少年でした。

「こんにちは」と取材班が言うと、少しはにかんで、でもはつきりとした声で「こんにちは。藤倉亮です」と返事が返ってきました。

藤倉君を実行章に推薦してくれたのは、担任の小^こ檜^{ひな}山^{やま}達也先生です。

「いつも率先してクラスをまとめてくれます。友だちへの声かけや、私がいけないときには『今は静かにしなくちゃいけないよ』と言ってくれます。普段はおとなしく見えませんが、芯が強く、頼もしい子です」と、小檜山先生は推薦の理由を教えてくださいました。

「友だちが困っているのがわかるの？」と藤倉君に聞くと、「登校中とか、友だちが『荷物が重い』と言ったりするのでわかります」という答え。

友だちの様子を観察して、その声に耳を傾けているからこそできるのでしょう。普段は鬼ごっこなどをして友だちと遊んでいるのですが、藤倉君の気配りはそんな時にも働いているのでしょうか。クラスのみんなの前で話をすることも勇気がいりますが、藤倉君はなんでもないそうです。

あたりまえのことが あたりまえにできる 天^{てん}明^{めい}の子

校長先生手作りの
パネル

右から浦野祐子校長
先生、藤倉亮くん、小
檜山達也先生、荒井
三佳先生、



子どもたちの モチベーションアップにも 実行章をご利用ください。

天明小学校の先生から、ご質問を受けました。

Q 学校生活の中でのささやかな親切（「友達に忘れ物を貸してあげた」など）も、実行章に推薦しても良いのでしょうか。

A もちろんです。ささやかでも「小さな親切」を実行したことを、大いに褒めてあげてください。実行章を受けることで子どもたちのモチベーションが上がり、親切心を育てることにつながります。学校の教育ツールのひとつとして、どうぞご利用ください。

「親切」が身近にあることの意味

天明小学校では「一年生を迎える会」の中で、「小さな親切」運動への入会式が行われ、新入生全員にバッジが配布されます。運動を推進するのは「ふれあい委員会」です。実行章は毎月、校長先生から授与され、親切に関する情報は「ふれあいニュース」という掲示

倉君。この先の成長が楽しみになりました。

「実行章をもらえると聞いてどうでしたか。おうちの人に話しましたか」
「はい。『いつも友だちのことを考えているから、もらえるんだねよかったね』ってお母さんに言われて嬉しかったです」。

さすがにお母さんのほめ方も上手だな、と感心しました。ラーメンとハンバーグが大好きという藤

板で紹介されます。また、校内放送でも、今月は誰が実行章を受けたのかを知らせています。さらに、保護者にも取り組みの説明をいいねに行っています。

こうした体制の中で、あいさつ運動や募金などの活動を積極的にやっているのが、天明小学校の特長です。小檜山先生は今年、他県から異動してきましたが、子どもたちの会話の中で「親切」という言葉が日常的に使われているので驚いたそうです。「親切」が身近なものになっていくことがよくわかります。

天明小学校の浦野祐子校長にお話を聞きました。

「基本は、当たり前のことが当たり前前にできる子になって欲しいと思っています。ですから、あいさつや時間を守ること、目と耳と心で人の話をきくことなどは、繰り返し伝えていきます。また、親切をするには、人に気を配れないとできませんよね。それができるよう

になれば、小学校を卒業したあとも、社会人になってからも、人に好かれる人に育つんじゃないかと考えています」。

それを伝えるために浦野校長が作った標語パネルも見せていただきましたが、思いがこもっていると感じました。廊下には、「小さな親切」運動をご担当いただいている、荒井三佳先生手作りの木をあしらった掲示物がありました。荒井先生は、「小学生のうちにこうした活動を体験していると、この先も心に残ってくれると思います」と話してくださいました。子どもたちの自主性も引き出せているのだそうです。

先生方のお話を伺いながら、何度も藤倉君を見てしまいました。こうした学校の取り組みもあり、天明小の子どもたちの人思いやる心の芽は、今後もすくすくと育まれていくことでしょう。



「ふれあい委員会」の活動が掲示されています



実行章がこんな大きな「親切の木」になりました

全国表彰式の模様や、内閣官房長官賞、「小さな親切」運動賞（団体の部・個人の部）、作文コンクールやはがきキャンペーン入賞の皆様は、次号（新春号・平成29年1月25日発行）でご紹介します。

Part 2